

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	現在の理念は、認知症の方々に対しての基本的なものだが、地域密着型を意識し、変更したとはいえない。		「地域の中でその人らしく生活することを支えるケア」を具体的にイメージして理念を検討してみる。
2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ミーティング、入居者さんへの関わりの振り返りの時には、理念に必ず触れ、確認し合うようにしている。		日常のミーティングで掘り下げて、職員全員で話し合いまで余裕が持たないため、今後、より意識して理念を考えていく。
3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ご家族の方には、ホーム便りを活用し、理念をさりげなく盛り込み、面会時にも意識して話しをするように心掛けている。地域住民の方々に対しては、グループホーム設置前に事業所の理念・役割を説明しているが、それ以降は途絶えている。		地域的な面で、溶け込み馴染んでいくことは、なかなか難しい面もあるが、再度、ホームの紹介等を交えて地域の方々に配って、理解を少しでも深めてもらいたい。
2. 地域との支えあい			
4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域的にご近所の家など、付き合いが難しい面もあるが、病院での面会が終わったご家族の方などには、必ずご挨拶をし、日常的に会話をできるよう心掛けている。		
5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の小学校より、授業の一環として、お年寄りの生活を学ぶ機会を設けている。他、小学校のボランティアを受け入れ、地元の人々と交流をしている。		
6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	事業所の実践内容を踏まえ、様々な研修・介護教室に関わりながら、認知症ケアの勉強を行っているが、地域の高齢者への啓発までには至っていない。		地域に対して、ホーム便り等を利用し、少しでも役立ってもらえるように取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	意義とねらいについて、職員で必要性を確認し合い、全員で取り組んでいる。昨年の改善点を改善できるようスタッフと話し合い、取り組んでいる。		
8 運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、ホーム設立から今日までの概略や施設の特色のご紹介、昨年の外部評価の結果を踏まえて、最近の運営状況について説明をしたり、ご家族の方々からは深くご意見・ご要望をいただき、できることを一つひとつ実現させていけるよう、話し合うようにしている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	現在は、市町村との連携が多いとはいえない。市町村担当者と連携・交流を図るよう、話しをするようにしているが、担当者の変更が多く、継続していたものが、断続的になってしまうことがある。		積極的な連携を継続していくため、話しをする機会を増やし、事業所の実情や取り組みをよく知ってもらうようにしたり、情報を提供していただいたり、担当者が変更しても、どんどんアプローチを増やしていくようにする。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	情報として理解はしているが、職員とともに学ぶ機会までは至っていない。		成年後見人が必要なケースは管理者が1人で対応するため、意義・仕組み等、スタッフ勉強会の一つとして取り入れていきたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがない要注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止関連法は理解し、意識し仕事を行っているが、全ての職員が全てを周知しているとはいえない。		勉強会・ミーティング等で理解を深めるよう、取り組んでいきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間をとって説明している。一つひとつ不安点・疑問点に対し、説明し、料金についてはもちろん、体調面・ケアに関する考え方も理解、納得できるまで話し合うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心掛けている。その際は、ユニット毎に話し合いに出された意見は日々のケアに活かすようにしている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時に積極的に暮らしぶりや健康状態等を報告し、タイミングが合わないときは、お便りを個別に出し、情報交換をしている。介護記録にも目を通してもらっている。金銭管理も月に1回、記録を郵送し、確認していただいている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には、訪問時・手紙・電話でも何でも言っていただけるような雰囲気づくりに留意している。出された意見はミーティングを通し、職員全体で話し合っている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングは定期的に行ない、意見を出せる雰囲気づくりを心掛けている。それと少なくとも年に1回は個別面談を行ない、じっくりと話し向き合う場も設けている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者さんのケアにそえるよう、勤務時間を考え、その都度柔軟にローテーションを組んでいる。管理者を通常のシフトに入れていないので、夜間の対応や利用者の状態の変化に応じることができている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者さん・ご家族の方々への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要だと思うので、異動や離職がやむを得ない場合も、その時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにして、研修発表も必ず行ない、全職員が内容を閲覧できるようにしている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	関連の事業所などと交流を持つことにより、サービスの向上や意識向上を目的として交流している。(介護老人保健施設やデイサービス)		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	よく話しを聞くように心掛けている。休みを確実にとり、連休等にも考慮し、リフレッシュしてもらえるよう配慮している。		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	現場で起きている状況や変化を知るため、定期的に現場に来ており、利用者さんと過ごしたり、職員とコミュニケーションをとっている。各自が向上心を持って働けるよう、資格取得に向けた支援を行ない、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前面談で、生活状態を把握するよう努め、必要により体験入居をしていただき、ご本人の求めていることや不安を理解できるよう工夫している。必ずご本人にお会いして心身の状態やご本人の思いに向き合い、職員が受け入れられるよう関係づくりに努めている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか事前に話し合い、これまでの家族の苦労や今までのサービス利用状況など経緯をゆっくり聞き、次の段階の相談につなげている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	在宅の方はすでに沢山のサービスを利用されている方が多く、早急な対応が必要な相談者には可能な限り、柔軟な対応を行ない、スムーズに入居できるよう努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	必ず事前に見学してもらうことから始め、通っていただいて環境に慣れてもらうようにしたりと繰り返し行った上で、安定した利用に移行している。止むを得ずすぐに利用することとなった場合は、ご家族や関係者に来ていただくなどして、安心感を持てるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご本人の思い、不安などに耳を傾け、ともに支え合える関係が築けるよう努めている。常に人生の大先輩であるという考えで接し、入居者さんに教えてもらう場面が多く持てるよう工夫や声掛けに配慮している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者さんの様子や、思いなどを細かく伝え、ご本人を支えていくための協力関係を築いている。日々の暮らしの出来事や気付いたことなどの情報の共有に努め、家族と同じような思いで支援している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	情報交換を密にして、よりよい関係が築けるように支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族の方々を通じてなど、会う機会を設けたり、こちらの方から出向き、関係が途切れないようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気の合う入居者さんを把握し、散歩や外出、食事の席等を含め、より良い関係づくりができるよう努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院し、サービス利用が終了しても、ご家族の方の不安が少しでも軽減できるよう、面会后、立ち寄っていただき、お話しを聞いたり相談にのったり、他の入居者さんとともに面会に行き、元気づけたりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話を通して入居者さんの思いや希望を確認し、場合によってカンファレンスを開き、その人らしい生活が送れるよう努めている。また、困難な場合には、ご家族も交えて話し合い、その人らしい生活ができるよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を利用し、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式のシートを利用し、できるところと、できないところを把握し、過ごし方を考え、現状を総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	センター方式を利用し、課題とケアのあり方を明確にし、ご家族・本人と話し合い、介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じて見直しを行うことはもちろん、状況の変化に対しては仮のプランを考えたり、ご家族の方と話し合いを行っている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	スタッフだけではなく、ご家族が見ても日々の様子・ケア内容や変化等、すぐにわかるよう細かく記録に残し、日々の介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人・家族の状況に応じて、通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域がら、地域との様々な接点は見出せていないが、周辺施設への働きかけやボランティアへの協力を呼びかけ、入居者さんの意向に沿えるように働きかけている。		地域との接点が少ないため、少しずつ、ホーム便り等の情報を流し、接点を見つけていきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者の方の希望や体調に応じて、訪問理美容サービスを利用いただいている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加していただけるようになって、関係を築くことができたが、まだ十分に協働しながら本人本位の支援には結びついていないといえない。		これからは、運営推進会議を通じて、より協力関係を築き、周辺情報を得たり、支援に関する情報交換を行ない、より本人本位の支援に結びつけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	よく知る看護職員に気軽に相談している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医に生活状況等を相談・報告し、治療が受けられるよう支援している。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけの病院の担当看護職者と気軽に相談できるシステムとなっており、日常の健康管理を支援している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	情報交換を密に行ない、安心して入院生活が送れるよう努め、面会も行ない、早期に混乱なく退院できるように連携している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	グループホームでできることが限られているため、病状の変化の際は、本人にとってどうあったらよいのか、ご家族の意向を大事に、できるだけ最大の支援ができるよう、その都度話し合っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人やご家族の意向を踏まえ、医師・職員が連携し、随時、意志を確認しながら取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	なるべく今まで使用していた使い慣れたものを持ってきていただいたり、思い出のものや写真などもご本人に合わせてダメージが少なくなるよう、配慮している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	誇りやプライバシーを重んじ、一人ひとりに合った言葉かけや記録を行なっている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者に合わせて声をかけ、飲みたいもの・食べたいメニューなど、些細なことでも本人が決める場面をつくっている。職員側で決めたことを押しつけるようなことはせず、一人ひとりの利用者が自分で決める場面をつくっている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れは持っているが、時間を区切った過し方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その時の本人の気持ちを尊重している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	朝の着替えを本人の意向で決めてもらい、職員は見守りや支援が必要ときに手伝うようにしている。日々、化粧やおしゃれを楽しむことを大切に、本人の馴染みの理美容院を利用できるようにしたり、訪問理容も利用している。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	一緒に相談しながら好きなものなどをメニューに取り入れ、調理・盛り付け・片付け等も一緒に行い、食卓も皆で囲み、楽しく食事ができるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの好むものを理解し、飲水やおやつをもうけたり、又、好きな時に飲んでいただけるよう、コーナーを設置したりして、楽しみへとつなげるようにしている。たばこは職員で預かり、本人の希望に添って、他入居者さんの迷惑にならないよう、換気のよい場所に喫煙スペースをつくり、吸えるようにしている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者さん一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行なっている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員が一方的に決めず、利用者さんのその日の希望を確認し、入浴していただいている。入浴を拒む人に対して、声かけの工夫やチームプレイ等によって一人ひとりに合わせた入浴支援を試みている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの体調・表情・希望など考慮し、散歩や買い物などの声掛けをする。又、夜間寝つけない入居者さんには部屋でお話しをしたり一緒に休むなどの配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の協力を得て、小額のお金を持っている人もいる。自分の財布からお金を出すことで、社会性の継続につなげている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気や本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう、日常的に散歩・買い物・ドライブに出かけたりしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	一人ひとり現時点での生活が精一杯で、あそこに行ってみたい等、聞いても答えは返ってこないが、今後、そのような機会があれば取り組む心構えで接している。		普段の生活の中で昔を回想する場面を意識して会話をもっていく。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望に合わせて、電話したり、出来ない方には代行して番号を押し、話せるように関わっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	情報交換を密に行い、気軽に訪問できる環境をスタッフ一同心掛けています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スタッフ全員が理解しており、日々のケアを申し送り、ミーティング等で意識しながらケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者が外出しそうな様子を察知したら止めるのではなく、さりげなく声をかけたり、一緒についていく等、配慮し、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者さんと同じ空間で記録等の事務作業を行い、さりげなく全員の状況を把握するよう努め、夜間は数時間ごとに様子を確認し、起きてこられたときは、対応できるよう居場所を工夫している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの能力に合わせて、家族の方と話し合いながら進めている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を防ぐ為の工夫に取り組んでいる。例えば、食事形態・歩行状態・夜間の入眠状態など。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時に備え、マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。救急手当や蘇生術の研修を実施し、今後も行なう予定である。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回程、避難訓練を行っており、消防署の協力を経て、避難訓練・避難通路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。		
72	リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	その時の状況により考えられるリスクに対しては話し合いを行い、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の状況を把握しており、食欲や顔色、様子の変化がみられた時は、バイタルチェックを行い、記録をつけ、状況により医療機関受診につなげている。変化等、気付いたことがあれば、管理者に報告することはもちろん、職員間で情報を共有し対応にあたっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	必ず、どのような薬を服薬しているのか、飲み方・副作用を医師・薬剤師から指示をもらい、指示量が正確に内服できるようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	繊維質の多い食材や乳製品を摂りいれている。散歩・家事活動等、身体を動かす機会を適度に設ける。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の歯磨き、義歯洗浄を支援し、必要時、歯科受診し、アドバイスを受けている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	普段から利用者の食べ物・飲み物の好みや苦手なものを捉えるなど、生活習慣や日頃の様子を観察しながら、利用者一人ひとりが一日全体で、栄養や飲水量がどの程度摂れているのか、おおよその量を職員全員が意識しながら関わる。また、むせたり、普通の食事が食べられない利用者についても、暮らし全体を通じて食欲を促し、食がすすむように工夫している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関して、情報収集を行い、その都度、職員に周知してもらい、利用者の方には家族の方にも同意していただき、職員ともにインフルエンザの予防接種を行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>まな板やふきん等は、毎晩漂白し、清潔を心掛けている。冷蔵庫も点検、掃除し、食材の残りは鮮度や状態を確認し、冷凍したり処分したりしている。調理器具、台所水回りの清掃、衛生を保つよう職員で取り決めて実行している。冷蔵庫・冷凍庫の食材の残り点検を頻繁に行なっている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>外玄関には花などを置き、気軽に立ち寄っていただけるように配慮している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>茶碗を洗う音、御飯のたける匂い、季節の食材を取り入れたりし、五感を意識的に取り入れる工夫をしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共有空間が居間・食堂等の限られた空間の中、どのようにしていくか検討する必要がある。</p>		<p>具体的にどのようにしていくか。過しやすくするため、入居者さんと相談し配置替えを行なっていきたい。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご家族と相談しながら、馴染みのものなどを持ってきてもらい、本人が安心して過ごせるような工夫をしている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>空調や換気を常に行なっている。温湿度調整も温湿度計を設置し、調整している。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>要所への手すりは設置しており、浴槽の滑り止めマットを使用している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>入居者さん一人ひとりに合った支援をすることにより、混乱や失敗を未然に防いでいる。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>プランター・鉢などを利用し、野菜や植物を育てることにより、活動場面に活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ① 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input checked="" type="radio"/> ③ ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/> ③ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/> ③ ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 笑顔で明るく元気に何に対しても前向きに頑張る。